

発行人 東海大学附属望星高等学校 同窓会
Tel 03(3467)8111-1111
平成九年三月発行

東海大学付属望星高等学校

同窓会報

第19号



三月一卒業期を迎えて

学校長 村田宣夫

各地の花だよりが聞かれる時候となつた。今年は比較的暖冬ということで梅や桃はすでにその季節が終り、いよいよ桜の花前線が近付く気配である。陽気も随分と暖くなってきた。学校社会では三月に卒業式、四月に入学式という大きな慣行的行事が待ちかまえている。卒業生を祝福の中で送り出す、新入生を期待を持つて迎え入れる、私たち教員にとってどちらも最高に嬉しい思いを実感する時である。

今年望星高校を卒業する予定の生徒数は約一、三〇〇名を数える。(在籍生徒総数は約五〇〇〇名)

平成元年に他校にさきがけてユニークな教育内容をもつ単位制コースをスタートさせ、さらに各地の高等専修学校(卒業者の集まる専門学校)との技能連携校が十二校と広がり生徒数もおよそ二、七〇〇名余を数える。連携校の生徒は調理師や社会介護士の資格や服飾技術やデザイナー等の技能を卒業の時に併せて取得することができる。時代が変化し日本の社会構造が急変し

てきているなかで、望星高校に集まる生徒たちも大きく変わっている。定職を持つて働きながら勉強するいわゆる勤労青少年や家事や育児と両立させる主婦学生や五十～六十才台の年配の生徒たちの在籍は極めて稀になっている。そのかわりに中学校時代から欠席の多い不登校タイプの若者や自閉的に集団の中に積極的にない生徒たち(男女にかかわらず)が多くなっている。もちろん心身に障害を持ちながらひたむきに高校生として学習に励もうと努めている生徒たちも数多く居る。生徒たちがどう变ろうとも学校が目指すもの、教育が求めるものはいつも居る。生徒たちがどう变ろうとも学校が目指すもの、教育が求めるものはいつまでも变らない。それは学力を越えて人ととの付き合いであり、いかに強い信頼のきずなが結ばれていくかに懸つてゐるかである。いま学校の存在する理由はまさにその原点に戻されているともいえるのではないだろうか。

少子化の時代が実際に到来している。例えば東京都内の公立中学の卒業生は十年前の一九八七年は十五万七千三百九十三人であった。一九九五年(平成七年)

は十万百三十五人と減少している。全国でもその傾向にある。そして高校進学率は首都圏において九十七%、全国では九十二%と変わらず高い水準にある。卒業生諸君に会報の紙面を少々お借りして母校の現況報告とご挨拶をさせていただいた次第である。

第三十四回同窓会の御案内

青い空に遊ぶ白い雲、柔らかな若葉の緑、類をなしていく薰風、学校には懐かしさを求めて集まる、少し年老いた笑顔の渦。

久しぶりに学校へ行こう。

豪華な景品も揃え心からお待ち

尚、ご出席できない方もハガキで近況をご一報下さい。

記

一、日時 平成九年五月二十五日(日)

午後一時より総会

午後二時より懇親会

二、場所

東海大学付属望星高等学校

総会 一階教室

懇親会 生徒ホール

三、会費

今年度卒業生 三千円

御夫婦での参加 五千円

第三十三回同窓会に参加して

同窓会事務局長

金谷 義孝



爽やか五月晴れの日、第三十三回同窓会が母校で開催された。

総会は、総会次第どおり進み決算・予算等執行部提案どおり承認され、そして懇親会と進行して行く。このように淡淡と、何の支障もなく進行して行く裏には役員達の協力で怠りない準備等が有るからと思える。

学校内での同窓会開催は手作りの味があり登校することが懐かしく思われる会員の方も多いので三十四回までは学校とのことだが、三十五回の同窓会は記念式典なので別会場で

豪華に行う予定との事らしい。これで、たまにはほかの会場で同窓会を行いたいとの会員の声と役員の心行くまで飲み捲りたいとの思いと、後戸付けから開放もあり今から待ち遠しい。

懇親会場では、内木先生の変わらぬ名調子を始め諸先生の話や新会員の紹介等などで、あちこちに談笑の花が咲き時の経つのが早く感じる。

最近は同窓会にも多少の余裕ができた為かビンゴゲーム等の景品も豪華になり、会費以上のお土産を持ち帰る方も多いくなった。

会場の飲食物も多少豊富になり以前は役員はあまり食べられなかつたのだが、今年は蕎麦の売れ行きが悪く、残り物に福有りと沢山食べた時は、思わずニットと笑顔がこぼれた。

最後には恒例の全員で肩組合いながら校歌を歌うのだが、何度も胸の辺りが熱くなるのは私だけではないであろう。

単位制だより



単位制同窓会会長

大串 勝寛

私も望星高校を卒業し四年目の春を迎えております。また、今年の春で大学生活を終え、社会人としての一歩を踏みだすところであります。望星高校を卒業してからの大学生活の四年

間も、望星高校での三年間と同じく、今では一瞬の出来事の様に思えてきます。大学生生活では、特にこれといった思い出ではないのですが、個人としては満足できるものです。

様々な場所で多くの人と出会い、その人達それぞれの人生観や価値観に触れ、自分達の置かれている環境や立場といった事について、

充分に考えることが許された四年間でもありました。四年前には、望星高校の三年間が強烈であった為、大学での4年間にはそれと同様に自分が満足できるものがあるのだろうかという不安と疑問がありました。今となつては自分の神経質な一面だったのでしょうか。

しかし、社会人としてこれから自分の自分を考えると、四年前と同様の事が自分の頭の中でぐるぐると回り続けています。十年後には、結局思い過ごしであったのかと思えるぐらいの余裕があると良いのですが。

このように私は、学生としては最後の期待と不安の入り交じった春を迎えております。私の文章を読んで下さっている親切な方は、どのような春を迎える、そして過ごしていくつもりでいらっしゃるのでしょうか。これからも単位制コースの同窓会を開催しますので、頭の片隅にでも覚えていらしたら、声をかけてください。いつかその機会を楽しみに待っています。皆様も肩に力をいれずに、ゆっくりと一日をすごして下さい。

静岡校だより

静岡校同窓会会長

溝口 古敏

一九九六年十一月三日静岡市呉服町スクランブル交差点が見渡せる店「キリンシティ静岡」を、午後三時から午後五時迄一時間貸切りで、望星高校、静岡校の第一回同窓会を開催しました。

第一回目の同窓会としては、それも予想以上に大勢の参加を頂くことが出来、幹事としては何よりも嬉しいございました。

返り見ますと昭和五十一年静岡校同窓会設立から、平成七年度まで、延べ四〇〇名以上の卒業生を数える事ができます。

又、連携校を含みますと、一、三〇〇名以上にもなります。今後もますます同窓会が発展して行く事を心から喜びたいと思います。

私個人としても学校を出ましてからすでに数年の歳月が流れ、昭和から平成に変わり、静岡校も四年制から、三年制になり昔日の面影を大分変えてしましましたが、しかし、母校はいつまでもなつかしいものです。

皆様も、社会に出られまして、同窓会のよしみがどんなに深いつながりをもつのであるか、よくご承知の事と思います。この意味におきまして、こういった席を大いに利用していただき、今後のご発展、ご繁栄のお役にたてていただければまことに、嬉

こばしい次第です。

尚、静岡校においては、二〇〇一年に、二十五周年記念行事を盛大にとり行うと云う事で、同窓会も協力体制をとる準備活動を始めたところ、東京の同窓会も全面的に協力しますと云う有難いご返事と、ご好意に感謝しております。

我々、同窓会も二十五周年事業に向け、一般生、連携生共々、一丸となって活動及び協力していきたいと思つております。

静岡校開校二十五周年には、一同また是非とも皆様と再会したいものです。

さて、このたびは、恩師であります諸先生及び来賓の方々をお招きでき、喜びで一杯でした。先輩、後輩、友人、恩師を囲んで、ゆっくり語り合い、飲み合う、楽しい集いを、一時過ごしていただき、大きな喜びでした。これからも、静岡校同窓会、益々の発展を目指して、各所で頑張っていきます。



写真は同窓会実行委員の皆さん
前列向かって左側が私

東海大学付属高校

連 合 同 窓 会



第二十八期卒業生
大谷 あづさ

昨年の夏、第二十一回目の連合同窓会が、長野県にある白樺湖観光ホテルに行なわれました。今回の開催校は付属第三高校でした。

全国付属十三校の代表者が一同に集まり、一年ぶりの再開となりました。今回望星高校からは八名が参加をし、総数約七十名前後が集まりました。

今回の連合同窓会の初日はゴルフコンペがあり、私はゴルフをしないので、一日目の観光から参加をしました。観光した場所は上高地で、私自身上高地は二度目で、前回来た時はあいにくの雨にみまわれ何も見えず、いまひとつ感動がありませんでした。ところが今回は運よく天気に恵まれ、あの時まったく見ることのできなかつた美しい景色を見ることができました。

さて観光も終り、ホテルに戻るといよいよメインである総会が開かれました。総会で各校がそれぞれ近況報告を行い、その中には甲子園に出場したことや、二十周年、三十周



同 窓 会 役 員 に 就 任 し て



第三十三期卒業生
大澤 可奈子

昨年三十三期生として、望星高校を卒業し、同窓会役員となりました。役員にはなったものの、私に上手く務まるだらうかと不安でいっぱいおりました。五月に行われた懇親会では、閉会の辞を述べる事となり、先生方や多くの卒業生の皆さんを前にして、緊張も頂点に達しましたが、なんとか無事終えることが出来、ほっと胸をなでおろしました。人前に出ることが苦手である私にとっては、考えられない経験となりました。このようになんとか出来たのは、同窓生の方からの助言を参考にして述べる事が出来たのだと思っております。

学校を卒業してしまって、その後母校へ足を運ぶ機会はなかなかないのですが、私は、役員会が開かれる度に訪れる、学校まで通つた道や校舎が妙に懐しく、望星高校で過ごした日々が想い出され、「ああ、ここが母校なんだな」と実感いたします。

あらゆる点で至らない私ですが、同窓会の皆さんにいろいろと助けられて、現在に至っております。今後も微力ながら、同窓会の発展に、協力出来ればと思っております。

卒業後はとかく日々の生活に追われがちになり、まして職業に就いてる方にとっては、貴重な休日にもかかわらず、同窓会運営の人一人の思いが、同窓会を発展させる原動力になっているのだとこの一年を通して、強く感じました。私もそういった熱意や思いやりを忘れない同窓生でありたいと思っておりま

先生の声

『マルチメディアの波』



成沢 敏雄

私が信州の片田舎から上京し、まだ七輪を使って自炊生活をしていたころ、手作りの受信機で捉えたFMの試験電波が東海大学との出会いであった。

現在は「物理IB」を担当しているのだが、「波」の持つ魅力にひかれていた。海の波、電波、光、放射線……そして、ヒトの身体や心の中でふるえているさまざまな波。

昨年、127日にわたって「望星丸」とともに世界一周を楽しむことができたのはインター

ネットのおかげであり、念願であった四大運河の通過もビール片手に疑似体験することができた。また、今までは高嶺の花だった外国の資料もオンラインで安価に入手できる上、コンピュータをもたない友人への電話も可能になるなど、光ケーブルの持つフレキシブルな魅力はこれからも私を捉えて離さないことだろう。

望星高校の卒業生は自習を心得ています。将来においても学ぶ気持ちを忘れずに、何時までも七色の虹のように輝いていて欲しいと願っています。そして同窓会のたゆみない発展と共に、多くの仲間が参加することを心から望みたいと思います。

e-mail: ryou@dn.or.jp
<http://www.dn.or.jp/~ryou>「天狗の麦飯」

望星高校とともに歩んで



桜井 須磨子

望星高校の第一回卒業式は昭和三十九年三月十五日であったと記憶している。当時は、友人の結婚式と重なっていたが、私は卒業式に参列してから、結婚式場へ行った。二十八名の卒業生の晴れがましい笑顔と式辞の言葉が今でも脳裏に焼き付いている。

それから一年後の昭和四十年四月に私は望星高校の教員になっていた。名譽校長の内木文英先生から声を掛けられることだった。

FM東海（現在の東京FM）からの転職であった。放送局から教育現場への転身には、正直のところ自信はなかったが、それを払拭つて下されたのは内木先生の一言であった。

「教えるなどという思い上がりた気持を捨てて、生徒と一緒に学習することだよ。」との助言を頂いて三十数年の月日が流れていきました。

在職中は担任としての喜びや悲しみ、時には苦しみなど多くを学習し今日ある私を育んで下さった卒業生の皆さんには心から「ありがとうございました」と感謝を述べたいと思います。

望星高校の卒業生は自習を心得ています。将来においても学ぶ気持ちを忘れずに、何時までも七色の虹のように輝いていて欲しいと願っています。そして同窓会のたゆみない発展と共に、多くの仲間が参加することを心から望みたいと思います。

「やあ」「おお」



菅野 弘章

一九九七年三月定年。報告課題の提出回数やスクーリングの出席回数をパソコンにインプットしたり、間違つてましたとクレームがついた数字を訂正したり、レポートを袋詰めにしたり、その他もうもの「教育」という形が皆の前にあらわれる以前の雑用に追いまくられる煩雜から解放されるのを楽しみにしている。九十一名の担任となつて疲弊、目はくぼみ、倒れる前にいつやめてもいいよう積立貯金の解約など身辺整理を始めていた。この原稿を依頼されるまで何とかもつてきたのは種々相談に来たり、作文を通して知った四年生諸君の真摯な姿に励まされたからにはならない。読んだり、書いたり、登ったり、聴いたり、観たりすることに丸一日が毎日毎日使えるなんて夢のようである。でも、今日も学校に行かなくていいという毎日が現実になると、夏休みや冬休みで予行演習したつもりでも、ボカントなる日があるのでないかと思つたりもする。どうだろうか。

皆に手を振つてサヨナラを言う気持ちは皆無である。会えば「やあ」「おお」と言いつづける関係に変りはない。

若いのぼやき



桑島 祐夫

ある呑み屋の主人の曰く「いい加減稼いでやつぱり脱サラしてよかったです。ここで店を開めて悠々自適にと思ったら、途端に世間はあそこは潰れた、ですよ。他人の不幸は蜜の味ですかね」。

ある年配の女性の曰く「定年退職されても

氣落ちせず、毎日毎日を強く生きて下さい」。始めは何のことかわからずボカントしたが、結局、彼女は何もわかつていいのだった。毎年勤めてその掲句に手に入る、この自由な時間とそして空間の何とすばらしいことを。自分なりのデザインというか、演出といふか、過去の生活に立つて描くショミレーションによってすぐす闊達で幸せな日々。

といって毎日を幸せに消していくには、まず健康でなければならない。自分の健康状態とこれらめっこしながら、自由を満喫しなければならない。

この東京にいるのだから、東京を利用とうより活用しなければ、損だ。汚れた大気を吸い込むのだから、その見返りに、せいぜい夢の島と刑務所以外のあらゆる施設に出入りして、エンジョイすること。

ただ、これがいつまで続くかは、本人はわからない。

内木コートナー



東海大学付属高等学校
名誉校長 内木 文英

通信制教育五十年

今年（平成九年）は、高等学校の通信制教育が始まってから、ちょうど五十年という記念すべき年だという。高等学校の通信制教育の全国組織である全国高等学校通信制教育研究会（全通研）では、その五十周年を記念して記念誌をまとめたという。

「内木さんは、この教育にいちばん長く関わっているから、その五十年の歴史のうち、はじめから四十年間の歴史を書いてほしい。四百字詰原稿用紙二百枚ほど書いて下さい」

そう言われて、十月頃から資料をもとに書き始めたが、その草創期の苦心というものはなみなならぬもので、書いていて心を打たれ涙をこぼしたりする。

昭和二十三年三月十五日、実施校九十三校、生徒八、七九五名で始まったが、その生徒のうち何人が高等学校の卒業資格を手にしただろう。当時は定時制を併修して高校卒業にこぎつけたのだ。通信だけで卒業できるようになつたのは昭和三十年度以降のことと、昭和三十

（二年三月に、一九一名が卒業している。その二年後の昭和三十四年に望星高校は誕生している。私学としては一番目に古い通信制の高校は、十数年前に通信制を廃止しているから望星高校は今では私学としては、もっとも古い通信制の高等学校である。平成八年現在の実施校七十九校、生徒数一五、五五三名、平均年齢二〇、五歳である。

「あのFM問題のことも書いて下さい」と全通研の小松事務局長に言われて、私は、その時のことを次のように短く書いている。

この年（昭和四十三年）一月六日、小林武治郵政大臣が、記者会見で、「FM放送の商業局」を在任中に東京などの大都会に免許したい。これに関連して三月末に免許の切れる東海大学のFM東海実用化試験局には再免許しない方針で、すでにFM東海側に伝えてある」と語り、大問題となつた。各紙がこのことを報じたが、特に朝日新聞は、「宙に浮く『通信』高校」「折角の努力がムダ 嘆く生徒千五百人」という大きなタイトルをつけて、ほぼ一面全部を使って報道した。文部省の木田宏社会教育局長が「文部省としては、かねてからFMを教育に使うよう要望しており、せっかくここまで伸びてきた特色ある通信教育をつぶすのは残念だ。何とか存続させたい」との談話を発表、「FM問題」として社会問題となつた。全通研も全力をあげて、FM東海と東海大学付属高校の存続のために支援につとめた。最後には問題の決着を求めて裁判が起こされた。

昭和四十三年八月八日、東京地方裁判所

二年三月に、一九一名が卒業している。その二年後の昭和三十四年に望星高校は誕生している。私学としては一番目に古い通信制の高校は、十数年前に通信制を廃止しているから望星高校は今では私学としては、もっとも古い通信制の高等学校である。平成八年現在の実施校七十九校、生徒数一五、五五三名、平均年齢二〇、五歳である。

「あのFM問題のことも書いて下さい」と全通研の小松事務局長に言われて、私は、その時のことを次のように短く書いている。

（杉本良吉裁判長）は、東海大学の申立てをほぼ全面的に認める判断を下し、国の敗訴となり、望星高校の存続は決定した。

後にFM東海の業務は昭和四十五年四月に開局したFM東京（現在の東京FM）に継続され、望星高校の生徒たちへの授業放送も確保された。平成九年現在、この教育放送は衛生放送によって流されている。

たくさんの人々が望星高校の教育を支えてくれたことを私たちは忘れてはならない。

また、望星高校はそれまでの自分がどれほど精神的に脆く、甘えていたかを教えてくれました。このことは僕の人生において非常に衝撃的なことでした。様々な環境の人たちの中で共に学んだことは僕にとっては今でも誇りであり、そこで出逢った素晴らしい友人たちと過ごした日々は大切な思い出です。

近年、高校中退や不登校といった問題が急増し、深刻な社会問題となつていますが、僕は現在そういう悩みを持つていていますが、僕は自暴自棄になってほしくないのです。僕も高校を中退した時には先のことを考えて悩みましたが、望星高校を卒業して今では曲がりなりにも大学生になることができました。



第三十期卒業生
古屋 純

詩集『道標』出版にあたつて

僕は昨年の八月に鳥影社という小さな出版社から詩集を出版しました。この本は僕が全日制高校を中退し、望星高校を経て現在在学している通信制の大学へ進むまでの数年間の想いを言葉にしてまとめたものです。

僕が初めて詩を創ったのは、望星高校の現代文の「現代詩を書きなさい」という課題で最初にその課題を目にした時はどうしたらよい

か判らなくなりましたが、心中で想つたことを素直に言葉に変えてやくうちに自分の想いを言葉で表現することの喜びを知り、今では詩を創るということは僕のがえのない趣味となりました。そして現在では毎日の生活の中で欠かせない日課となつたのです。ですからこの詩集は望星高校が創ってくれたと言つても過言ではありません。

また、望星高校はそれまでの自分がどれほど精神的に脆く、甘えていたかを教えてくれました。このことは僕の人生において非常に衝撃的なことでした。様々な環境の人たちの中で共に学んだことは僕にとっては今でも誇りであり、そこで出逢った素晴らしい友人たちと過ごした日々は大切な思い出です。

近年、高校中退や不登校といった問題が急増し、深刻な社会問題となつていますが、僕は現在そういう悩みを持つていていますが、僕は自暴自棄になってほしくないのです。僕も高校を中退した時には先のことを考えて悩みましたが、望星高校を卒業して今では曲がりなりにも大学生になることができました。

僕は望星高校で学んだことをききかけに詩を書き始めました。そして今回出版した詩集は今、学校の問題などで心に負担を背負っている人々に少しでも励みになってくれればと思って書いたものであります。できれば少しでも多くそういった方に読んで頂けたらと考えております。

（道標）鳥崖社刊・星雲社発行

望星ゴルフ案内

平成八年に開催する予定のゴルフ会、幹事役の古森氏の都合により中止となりました。本年度は、先生方とも相談のうえ、十月の十一月に開催する予定です。

参加ご希望の方は、ご連絡下さい。

連絡先 ○四七四一三一九六四七

下倉 良次

学校だより

興津 玲子

同窓生の皆さん、元気で活躍しておられることがあります。(二十一世紀までに)〇〇〇〇日余となりました。学校も将来に向けて少しづつ様変わりをしつつあります。

校舎の外観は変りばえしませんが、どの教室にもビデオセットが置かれて、面接授業のさいの視聴覚教育にも大いに貢献ができるようになります。放送授業の方も通信衛星を使って全国ネットで聴くことが可能になりました。これらは今後の大きな課題として取り組みがすすめられています。

さて、今回は生徒・保護者交流会についてお伝えすることにしましょう。

本校独自の「面接代替制度」も正式に発足してからすでに五年目になります。この制度を利用している生徒・保護者の交流の場がもたれるようになり、回を重ねて今年一月十八日に三回目が行われました。だんだん参加者

もふえ、六十六名の生徒・保護者の方と教員二十一名が参加し、四名の在校生・卒業した代替生の方もパネリストとしていろいろな話の交流が行われました。お互いに質問したり体験を語り合ったりすることで絆を深め、励まされ喜んで帰っていました。お互いに質問したりも意義ある催しとなっていくのではないかと期待されています。

もう一つ、卒業生二名が教育実習生としてお立ち寄り下さい。

同窓生の皆さん、近くに来たら職員室にもがんばりました。

同窓生の皆さん、近くに来たら職員室にもがんばりました。

編集後記

- 平成元年卒高部麻里子さんが平成八年三月九日にお亡くなりになりました
- 古典(漢文)を担当していました天池政雄先生が平成九年一月一日六十九才で永眠されました
- 心からお悔み申し上げます。

○会報は年一回発行します。会員の皆様の近況やぜひ聞いて欲しい話、PRの場としてご利用下さい。

投稿をお待ちしています。

平成7年度 決算

収入		支出	
前期繰越金	6,668,916	連合会関係費	190,000
新会員入会金	1,404,000	生徒会関係費	90,000
新会員年会費	1,404,000	通信費	807,534
総会時寄付金	36,000	会報費	373,890
総会時寄付金	11,000	事務局費	111,140
同振込年会費	364,000	総会費	78,138
同振込年会費	236,000	印刷費	249,260
銀行振込年会費	0	交通費	90,000
雑収入(利子等)	214,148	会議費	49,345
"	28,863	卒業名簿費	375,950
		雑費	0
		支部活動費	511,000
		機器購入費	603,748
		(小計)	3,530,005
		総合名簿積立金	3,000,000
		繰越金	3,836,922
合計	10,366,927	合計	10,366,927
次期(平成8年度)	繰越金		3,836,922

平成8年度 予算案

収入		支出	
前期繰越金	3,836,922	連合会関係費	300,000
新会員入会金	2,722,000	生徒会関係費	150,000
新会員年会費	1,361,000	通信費	850,000
年会費	500,000	会報費	400,000
雑収入(利子等)	200,000	事務局費	250,000
		総会費	100,000
		印刷費	300,000
		交通費	300,000
		会議費	100,000
		卒業名簿費	400,000
		支部活動費	550,000
		機器購入費	200,000
		(小計)	3,900,000
		総合名簿積立金	3,000,000
		雑費(繰越金)	1,719,922
合計	8,619,922	合計	8,619,922

上記決算、監査の結果、相違無い事を認めます。 平成8年 5月19日

監査役 清水 庄司 (2期) 監査役 小澤 工三 (20期)

平成7年度総会・懇親会収支決算報告
平成7年5月28日 東海大学付属望星高校於いて

収入 支出

会費	210,000円	飲食費他	288,138
△78,138円(総会費より負担)			

平成8年度役員選出

会長	下倉 良次 (5期)
副会長	漆谷 繁康 (6期) 原澤 純一 (9期) 寺林 勝實 (29期)
書記	大澤 可奈子 (33期)
会計	大谷 あづさ (28期) 平賀 三保子 (33期)
事務局長	長南 友行 (7期) 青木 珠美 (28期)
事務局次長	金谷 義孝 (14期)
コンピューター	樋口 七郎 (24期) 児島 華子 (32期) 飯田 淳 (33期)
広報	畠山 勝 (16期) 原田 進 (26期) 岡田 貴弘 (30期) 須藤 左千夫 (33期)
監査役	清水 庄司 (2期) 小澤 エミ子 (20期)